

### ●生活と人生を変える福祉用具●

福祉用具や住宅改修は、一人となつて、ご自宅で暮らしておられる高齢者

## 地域No.1の福祉用具専門相談員を目指して 福祉用具のまごとなら、まかせて!!!

### スキルアップ(専門知識の向上)研修始まる

「お客様本位の質の高いサービス提供」を理念に掲げるさくらメディカルでは今年、お客様に選

特に、「身体」と「介護力」と「住環境」の三つの視点からきちんと選ばれた福祉用具や住宅改修は、ご本人の生活と人生を変えます。

### ●福祉用具のプロを目指す●

ばれる事業者・喜ばれる福祉用具専門相談員を目指して、専門的な知識の向上のための「スキ



質の高いサービスをお届けしよう！ 金沢先生の講義に真剣に耳傾ける受講者

ルアップ研修」に取り組んでいます。一月十五日の第一回目の講義では、講師の金沢善智先生と受講者三十八名が初対面し、今

### ●福祉用具の普及に貢献したい！●

金沢善智先生は、医療と建築の視点で福祉用具と住宅改修に関わって二十五年というこの分野の第一人者です。昨年までは目白大学保健医療学部教授として、次代を担う若者

後十二月まで毎月一回お客様の幸福のために最善を尽くす「福祉用具のプロ」になるための特別訓練が始まりました。

の生活と人生を向上させるための住環境を整えることです。そして、この役割を果たすためには、福祉用具や住宅改修に関する知識や技術をはじめ、人体や病気、障害の特性などに関する知識が欠かせません。



ひざを守る筋肉を鍛えるパテラセッティングを指導する金沢先生

### ●パテラセッティング？を初体験●

三月十一日に行われた第三回目では、人体と福祉用具・住宅改修に関わ

の育成と研究活動に携わっておられました。住宅改修の仕事が大好きな先生です。

「下肢編」がテーマでした。医学博士でもある金沢先生は、この道二十数年の知識と経験を、経験の浅い受講者にも理解できる言葉で指導してくださり、アツという間の二時間半となりました。学んだことを自分たちの身体で体験する実技編では、「パテラセッティング」にも挑戦しました。

パテラセッティングとは、膝関節の痛みにお悩みの方にお薦めの安全な運動です。毎日繰り返して行っていると、立ち上がる時や歩くときに重要な大腿四頭筋が鍛えられて筋力が維持・増強し、効果が実感できます。詳しくは、さくらメディカルの営業担当にお問い合わせください。

### 介護シヨップ紹介

## 新潟ユニゾンプラザ店

### 最新の福祉用具や介護用品を

新潟市の中心部にある「新潟ユニゾンプラザ店」は今春、おかげさまでオープン八年目を迎えました。

てまいりました。広々とした明るい雰囲気いっぱい当店では最新の福祉用具や介護用品を実際に見て触れて選んでいただけます。また、商品のことはもちろん、介護保険に関するご相談など、在宅介護についてのさまざまなお手伝いをさせていただきます。

新潟県の福祉機器常設展示場(展示・体験コーナー)や介護実習・普及センター)としての役割を果たしながら、地域のお客様のニーズにも沿えるように、日々努力を重ね

さらに、新潟市内の事業所などとも連携してお客様により細やかな質の高いサービスを提供することができるよう心がけております。お気軽にお立ち寄りください。



「お手軽にお立ち寄りください」左から長谷川、竹林、津田

新潟ユニゾンプラザ店

長谷川 泉

(福祉用具専門相談員)

# 一箇所で対応——リハビリ・精神科・ターミナルケア 訪問看護ステーション「みつごうや」

長岡市（三ツ郷屋）にある「訪問看護ステーションみつごうや」は、同じ建物の中にある「訪問介護ステーション」と「在宅介護支援センター」とともに「地域総合サービスセンター」を構成しています。同サービスセンターでは、高齢者の在宅

支援部門である三つの機能が一箇所に統合して有機的に連携することによって、効率のよい運営が行われています。

「ざいたくしんぶん」では三年前の第十六号におきまして、同サービスセンターの目的や活動状況などを取材し、ご紹介

しました。

今回は、高齢者や地域社会のニーズに添えて特徴的な取り組みをしている「訪問看護ステーション」にスポットを当てて、所長の丸山佳子様（看護師）と副所長の伊藤恵美子様（看護師）のお話しをまとめてご紹介します。



「みつごうや」18人のスタッフの皆さん

## ○近隣の規模の訪問体制

訪問看護ステーションは、規模的に四人から五人での運営が一般的です

が、訪問看護ステーションみつごうやは、三つのステーションが一つに統合して誕生した規模の大きな訪問看護ステーション

です。

看護師十二人をはじめ保健師一人、理学療法士三人、作業療法士一人という中で、精神科の経験を有する看護師が配置されていることも大きな特徴です。そのために、より特殊で専門的なケアが必要な場合に力を発揮できます。

勿論、近年増加してきている認知症やうつ病にも、経験豊富な看護師が対応しています。

## ○可能な「何でも相談」

理学療法士と作業療法士も配置されているので、自宅でのリハビリもできます。訪問看護師は注射や医療処置だけではなく、状態の変化を予測し、主治医と連携しながら対応

## 介護簡単メニュー

### いつでも手に入る白菜で “栄養豊富なクリーム煮”

白菜は淡色野菜でビタミンCや食物繊維が豊富です。加熱調理するとかさも減り、量もたっぷり摂れます。切り方の工夫で噛む力の弱い方でも食べやすくなります。そこへ鉄分を多く含んだカキを加えて栄養と旨味をプラスします。



作り方（四人分）

- ① 白菜350gを繊維に対して直角に食べやすい大きさに切る。軸は直角にそぎ切り、葉先は短冊切りにする。中心に近い方が柔らかいので、できれば中心部を使用する。
- ② 大きめのフライパンを弱火で熱し、マーガリン大1を入れ、カキ中4ケ（塩と流水でよく洗い、水気をとってからみじん切りにしたもの）を包丁ですくい取り、フライパンで炒める（弱火→中火にする）。
- ③ 水2カップを②の中に入れ、和風顆粒だし小1を加え、①の白菜を入れて柔らかくなるまであくを取りながら煮る。
- ④ 牛乳1カップの中に薄力粉大2を入れてかきまぜる。②の中に入れる時にザルでこしながら加える。
- ⑤ とろみが出てきたら、塩、コショウで味を整える。
- ⑥ 器に盛り、青物（パセリ、ミツ葉、ネギ等）のみじん切りをのせる。

高田訪問介護課 板倉寛子（介護食士）

にあたります。

悪くなつてからではなかなか回復が難しいので、予防的・治療的な関わりがとても大切です。その他にも「まるごと相談」・「何でも相談」も行っています。

また、加齢や疾病などによって心身共にうつ状態になり易くなつてくるので、ご家族の方々ともども心を明るく持つことが大切です。ですから、訪問看護師はいつでもみんな元気がよく、その役割を果たしています。

## ○介護はプロが対応

自宅での生活は、ご本人だけでなく、ご家族も含めて考えないといけま

せん。その役割として、ご家族を支えるということも大事です。

「そここのうちまるごと介護」だと思って、介護には住宅のことも含まれるので「生活環境まるごと」というような広い視点で対応しています。

「専門職がきちんと評価したサービスを提供できる訪問看護ステーション」であることも当ステーションの特色の一つです。

訪問リハビリについては、理学療法士と作業療法士がいるので、専門職がきちんと評価し、リハビリのプランを作成します。また、看護師もそのプランに沿ってリハビリを行っています。

「専門職がきちんと評価したサービスを提供できる訪問看護ステーション」であることも当ステーションの特色の一つです。

## ○「ターミナルケア」

「病院は嫌だ。家に帰りたい」というご本人の思いやご家族の「自宅で看取ってあげたい」という思いがあり、自宅で最期を迎えようと決めた方

へのサポートを行います。

人生の最期をご本人やご家族が「どうしたいのか」、また、「どうやって過ごしたいのか」という気持ちを整理し、満足のいく療養生活を送れるように支援します。

一般的に考えて、「こんな状態では自宅に帰るのは難しい」という状況であっても、ご家族と一緒に考えながらケアを行います。

最期は病院かも知れませんが、多くの人が「自宅に帰りたい」と思っています。「訪問看護」はそのような希望を、ご本人やご家族と一緒に実現します。

# 介護の現場を学生が体験学習

## 上越保健医療福祉専門学校と、さくらメディカルが企画

二十一世紀も最初の十年が過ぎ、団塊の世代の社会離脱も含め、いよいよ超高齢社会、介護の時代といわれるようになりました。働く世代の三人で高齢者の一人を支える現状も踏まえ、これから介護の現場で働く若い介護福祉士を養成する「上越保健医療福祉専門学校（川室優理事長・岩澤信学校長）」を訪問、お話を伺いました。

上越地方にたった一校



先生に見送られ、学校を出発

「上越保健医療福祉専門学校」は二年制、一学年三十五名という小規模な専門職業養成校です。――教師と学生の信頼



介護センターで打ち合わせ

をモットーに、一人ひとりを大切にしたい楽しく理解しやすい講義を展開しています。また、国際感覚を身につけ、世界に視野を広げるために、アメリカの大学の先生にも特



調理の合間、ご利用者様と談笑

別客員講師になっていただいたり、海外研修旅行も実施しています。――川室理事長は抱負を述べ、

緑に包まれた快適な学習環境の中で育まれるのではないでしょうかと岩澤澤学校長は育てる立場から語って下さいました。

それでは、実際にどういう教育をされて、介護福祉士を育て世に送り出しているのか。

カリキュラムの構成は、主に社会福祉や介護に関する概念・歴史・法律を学ぶ「講義」、自分で調べたり仲間と話し合ったりして講義で学んだ知識をさらに深める「演習」、さらにそれら校内で修得した知識や技術を介護の現場で応用できる能力を養う「実習」……それら三つを柱に授業を展開しています。

「実習」の内容は「在宅介護実習」と「デイサービス実習」で、一・二年次あわせて四五〇時間の実習を実施しています。

「実習」の目的は、介護を必要とする人たちが、それを取り巻く環境を理解すると共に、施設や在宅で働く人たちの役割を知る……つまり、体験授業です。

「実習」の基本理念は、人間としてのマナーを考慮し、「実習させていただいている」という謙虚な姿勢を重視していると

いうことです。そこで、実習を望んでいる一年生のお二人に現場体験をしていただき、感想を聞かせていただきました。

お訪ねするのは上越市三和区のご利用者様で楚山信秀様。四年前の「ざいたくしんぶん」十五号にもご登場していただいた元気な方です。今も変わりなくお過ご

しですが、奥様が入所、一人暮らしになったということでした。さすがに車はもう運転しません、そのほかは前と変わりなく過ごしておられました。楚山様は食事介助のみのご利用なので、昼と夕食をヘルパーの指導で作ってもらいました。上記にお二人のヘルパー初体験の感想をいただきました。

愛らしい動物には、人を元気づける心理的な効果をはじめ、ストレスを低減する生理的効果や会話を増加させる社会的効果、介護者の心労を低減する効果などがあります。

最近、テレビなどでも話題のいやし系ロボット「パロ」(愛称「さくらちゃん」)にも、可愛らしいペットと同じような効果があり、世界でもセラピー効果があるロボットとしてギ

パロは、フサフサの手に触れたり、長いヒゲに触ると可愛らしく動いて気持ちを和らげるなどのいやしを与えてくれます。高齢者の場合、生きた動物だと爪で皮膚を傷つけられたり、食べ物やトイレなどの心配や不安もあります。

パロは充電式のロボットなので、毎日の餌やりやトイレ、万一の事故などを心配せずに、「生活の質」を高めてくれます。



ひざに抱かれた社員の一員「パロ(さくらちゃん)」。いやし抜群! ……どっちが?

### 世界一のいやし効果 アザラシ型ロボット「パロ」いやし体験 お試いただけます!

上越営業部 清水 大輔 (福祉用具専門相談員)

## 体験感想記

### やりがいのある

#### 仕事

中村 千紘

今回、在宅介護体験ということでホームヘルパーの方と利用者さん宅を訪問しました。ヘルパーの方と一緒に

理しか体験できませんでしたが、冷蔵庫にあるものだけで何品も作らなければいけないし、私たちが普段食べるような具材の大きさや味つけではなく、その利用者さんの好き嫌いや歯の状態などいろいろなどところに気を遣い、また、利用者さん宅

調理を行い、家にある食材で料理を作りました。普段、料理を作る時は濃い味付けをしたり、具材を厚く切ったりしますが、利用者さんによって味付けを薄くしたり、細く切ったりしなければならぬので、利用者さん

の調理道具など普段使い慣れていない道具を使ったり、他の人が食べるという緊張感でなかなかスムーズに作業できませんでした。要支援の方だったので、盛りつけをお願いしたり、片付けの半分をやってももらったりと、できるだけ今の状態を保つよ

をよく把握しなければと感じました。

利用者さんそれぞれの好みや食事形態などが違うので、覚えるのは大変ですが、とてもやりがいのある仕事だと改めて思いました。

料理を食べた時、利用者さんは「ありがとう」と笑顔で何度も言ってくれ、とても嬉しかったです。

初めての在宅介護で、

# 健康生活で元気な 自然愛好家も苦しみを 乗り越えて現在がある



妙高市池の平 田地野政義さん

## 老後の先を読んで、温泉を使った快適生活

田地野政義さん八十歳、新潟県二酸化炭素防止委員、妙高市文化財審議委員という肩書きを持ち、妙高市の池の平で余生を送っています。しかし、余生というにはあまりに若い考え方をもちます。温泉を家に取り寄せ、

通じて快適な生活を送ったり、七十五歳からはじめたというパソコンを利用して、野山で山野草の解説。……そんな元気なお方と当社の接点は何か？  
今まで使っていた浴室のタイルを、ショックを

抑えた柔らかい材質に貼り替えようというところから始まりました。常に先を読みながら現在を生きようとする田地野さん。その生き方は若い頃の病弱という苦勞なしには語れません。

から高校、大学と進学した。ブランドがあったから子供の時の教育は戦前高校・大学は戦後の教育です。同級生はみんな十から十五歳位若いので、今でも、若い人の方が話が合います。

高校は新井高校へ行き、合格率十倍の教員免許を取りました。新井を回り、この町(旧妙高高原町(以下同じ))に転勤したらここが気に入り、妙高北小学校で退職し、この地に定住を決めました。特に植物に興味があり、小学校でも理科主任で山を歩きまわっていたものだから、身体に森林浴の効果がありました。振り返ると実感しますね。

## ● 十年遅れた社会人デビュー

脊椎カリエス(背骨が曲がる病気)になったのは十六歳、終戦の年。病院に行っても薬も何もない。その頃は三人に二人は亡くなってしまふ病気です。病院に行ってもわからない、コルセットするにも病院に石灰がないのでコルセットがない。近くの店から木綿の反物を

を買ってきて石灰を塗るのだけれど、石灰がけかけていて固まらなかった。ずっと寝ていた十六から三年間は動けなかった。起きてからも仕事はできない。ぶらぶらして親に迷惑をかけてしまいました。昭和の初めの生まれですから、病気が治って

を履いてきて石灰を塗るのだけれど、石灰がけかけていて固まらなかった。ずっと寝ていた十六から三年間は動けなかった。起きてからも仕事はできない。ぶらぶらして親に迷惑をかけてしまいました。昭和の初めの生まれですから、病気が治って

## ● 植物を主にした自然を友に

一応自分なりに、妙高の植物は全部調べてあります。八百位だといわれていたこの地域の植物が私が調べたら、千五百位は見つかり、七十五歳からはじめたパソコンで図鑑をつくって、それを製本してもらって妙高市に寄付しました。

毎日楽しみに写真を撮ってきてはパソコンに向かうのが自分の生きがいです。本当はいろいろな人とお話できると



田地野さん著による妙高の自然

という方が、食べ物もおいしくなるし、いいんですけれどもね。地球温暖化防止委員は町から推薦され、ずっとその委員をやり、町で講座ももっていました。ひとつは自然講座、それから書道や水彩画講座もや

ら書道や水彩画講座もや

## ● お風呂と融雪、限りない恩恵をくれる温泉

温泉の権利は、今なら四、五百万円位でしょうが、快適な暮らしができるのなら良いと、決心しました。

先のことを考え、年をとったら雪掘りができないと思って、屋根に温泉の熱を利用した融雪システムを考えました。勿論、業者にお願いましたが、基本は私が図面を書きました。屋根ばかりではなく、前も後ろも軒はふさがったことがあります。今は楽ですね。



お風呂は温泉

これからお風呂を改修して、やはり先々と老後のことを考えていかないとね。その場になってからじゃ駄目だから。

前にざらざらしたクッションの効くものに変えようと思ってるんです。手すりも付けてもらいました。

とにかく自分は体が弱かったからいろいろ考え工夫しています。この自然の中で暮らしている老後は幸せです。

これからのカラマツも芽吹きがものすごくきれいで、それだけでも癒されるんですよ。

これからのカラマツも芽吹きがものすごくきれいで、それだけでも癒されるんですよ。

これからのカラマツも芽吹きがものすごくきれいで、それだけでも癒されるんですよ。

## 初体験の取材記 病氣と向き合って、 跳ね除けて、 活動を続ける田地野様

取材に密着させていただき、最初は緊張しましたが、田地野様が今まで経験された病氣や趣味さらに地球温暖化防止活動など興味津々でした。

また、私自身であれば大病を患うことで、落ち込んで何も手につかなくなってしまうだろうと思

病氣とまっすぐに向き合うことで、人間としての強さと大きな優しさをお持ちなんだな、と感じました。

直江津居宅支援課 高原貴広(ケアマネジャー)

直江津居宅支援課 高原貴広(ケアマネジャー)